

大学院 教育評価アンケート結果

2020年度 修士課程【国際保健助産学専攻】

2020年度の修士課程(国際保健助産学専攻)の在学生(1~2年生)を対象とした教育評価アンケートは、**新型コロナウイルス(COVID-19)感染症の影響を受け、Web調査に切り替えました。**以下、在学生の調査結果についてご報告いたします。

■ 強く思う ■ そう思う ■ どちらともいえない ■ そうは思わない ■ 全くそうは思わない ■ 無回答

I. 現時点であなたが以下の項目を身につけているかについて回答してください

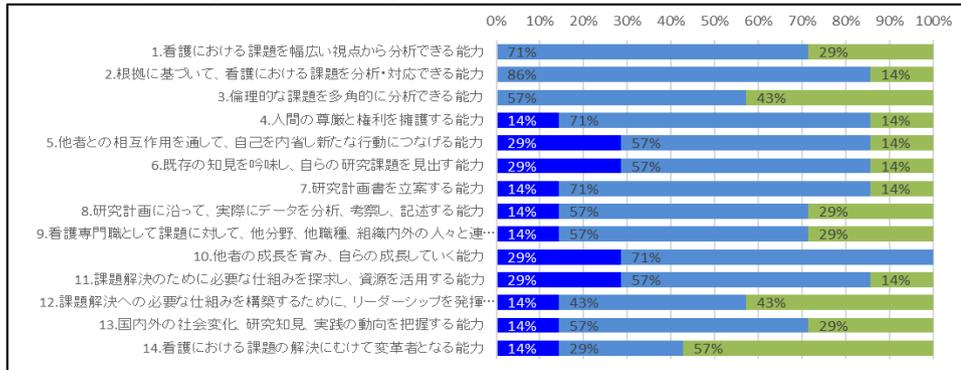
修士課程(国際保健助産学専攻)において現時点で身につけている能力として、在学生の**8割以上**が「強く思う」「そう思う」と回答した項目は、**14項目のうち7項目**でした。

そのうち、「他者の成長を育み、自らの成長していく能力」(100%)は、「DP8. 変動する社会に対応し、専門職として自己成長し、専門領域の発展に寄与する能力」に対応しています。

また、「根拠に基づいて、看護における課題を分析・対応できる能力」(86%)は、「DP1. 実践における現象から課題を抽出し、幅広い視点から分析する能力」に、「人間の尊厳と権利を擁護する能力」(85%)は、「DP2. 人々の尊厳と、権利を擁護するために、倫理的課題を多角的に分析し、対応する能力」に対応しています。

さらに、「他者との相互作用を通じて、自己を内省し新たな行動につなげる能力」(86%)は、「DP3. 他者との相互作用を通じて、自己を内省し、新たな行動につなげる能力」に、「既存の知見を吟味し、自らの研究課題を見出す能力」(86%)と「研究計画書を立案する能力」(85%)は、「DP4. 既存の知見を吟味して研究課題を見出し、研究を遂行し、論文としてまとめる能力」に対応しています。

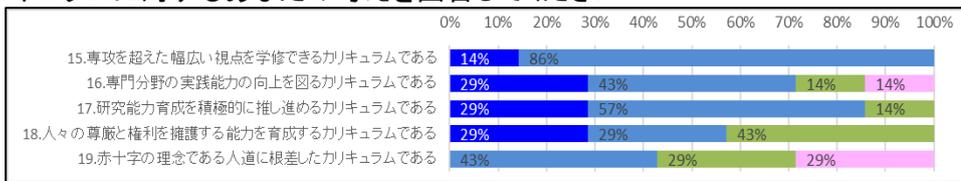
加えて、「課題解決のために必要な仕組みを探求し、資源を活用する能力」(86%)は、「DP5. 実践における課題に対して、根拠に基づいて支援を遂行する能力」に対応しています。



II. 本学大学院(修士課程)のカリキュラムに対するあなたの考えを回答してください

修士課程(国際保健助産学専攻)のカリキュラムの受け止めについて、**8割以上**の在学生が「強く思う」「そう思う」と肯定的に評価した項目は、**5項目のうち2項目**でした。

専攻を超えた幅広い視点を学修でき、研究能力育成を積極的に推し進めるカリキュラムであると評価されています。



III. 大学院における以下の内容に関する満足度を回答してください

本学大学院への満足度として、修士課程(国際保健助産学専攻)の在学生の**8割以上**が「強く思う」「そう思う」と肯定的に評価した項目は、**26項目のうち7項目**でした。

視野を広げて新しい発見をする授業が多いことや論文指導体制の充実さが評価されています。また、学問分野の専門家として優れた教員や、教育や研究、実践に対して熱意を持った教員が多いことが評価されています。さらには、窓口対応のスムーズさやキャンパスの安全性、ガイダンスやシラバスの充実さについても評価されています。

